MOVE THE WORLD FORWARD MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP

第100回
定時株主総会

2025年6月27日

三菱重工業株式会社

© 2025 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

三菱重工

報告事項

2024年度 事業報告

事業報告
三菱重工グループの現況に関する事項
事業の経過及びその成果
概況
当事業年度における世界経済は、地域により差はあるものの、全体としては底堅い成長を続け、日本経済も、個人消費と設備投資を中心に緩やかに持ち直しました。一方、地政学的なリスク、中国経済の減速に加え、保護主義的な動きの高まりなどで、先行きには不透明感が残る状況となりました。
受注、売上及び損益
このような状況の下、当事業年度における当社グループの連結受注高は、エナジー部門をはじめ全ての部門で増加したことにより、前年度を3,872億円上回る7兆712億円となりました。
売上収益は、航空・防衛・宇宙部門やエナジー部門などで増加したことにより、前年度を3,700億円上回る5兆271億円となりました。
事業利益も、エナジー部門や航空・防衛・宇宙部門などで増加したことにより、前年度を1,006億円上回る3,831億円となりました。
さらに、税引前利益も、前年度を593億円上回る3,745億円となり、親会社の所有者に帰属する当期利益も、前年度を234億円上回る2,454億円となりました。
この結果、連結受注高、売上収益、事業利益、親会社の所有者に帰属する当期利益のいずれも、前年度に引き続き過去最高額を更新いたしました。
連結業績
受注高
7兆712億円
前年度比 3,872億円増加
売上収益
5兆271億円
前年度比 3,700億円増加
事業利益
3,831億円
前年度比 1,006億円増加
親会社の所有者に帰属する当期利益
2,454億円
前年度比 234億円増加
25
26

事業の経過及びその成果

事業の経過及びその成果

三菱重工

世界経済

全体として底堅い成長が続く

日本経済

個人消費と設備投資を中心に緩やかに持ち直し

先行きには不透明感が残る状況

事業の経過及びその成果

三菱重工

受注高	7兆　712億円	前年度比 3,872億円 増加
売上収益	5兆　271億円	前年度比 3,700億円 増加
事業利益	3,831億円	前年度比 1,006億円 増加
親会社の所有者に帰属する当期利益	2,454億円	前年度比 234億円 増加

三菱重工

「2024事業計画」

事業成長と収益力の更なる強化の両立

重点領域

- 伸長事業の着実な遂行
- 成長領域の事業化推進
- 事業競争力の強化

事業の経過及びその成果

三菱重工

「2024事業計画」

（2026年度）

売上収益	5.7兆円以上
事業利益	4,500億円以上（事業利益率8%以上）
ROE	12%以上
株主還元	安定配当・利益成長に応じた増配

三菱重工

伸長事業の着実な遂行

エネルギー分野／ガスタービン

北米や中東など
幅広い地域で多くの受注を獲得

伸長事業の着実な遂行

原子力分野

既設プラントの再稼働支援や
燃料サイクルの確立に向けた工事

革新軽水炉「SRZ-1200」の開発

三菱重工

伸長事業の着実な遂行

防衛分野

飛しょう体や艦艇等で多くの受注を獲得

連続建造中の護衛艦2隻の引渡し

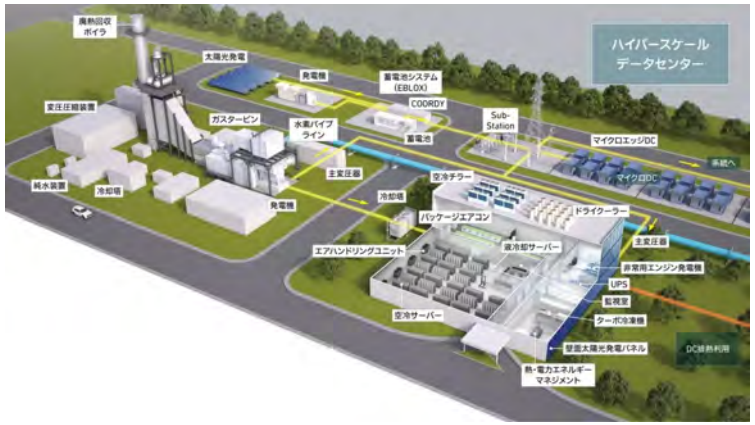
三菱重工

成長領域の事業化推進

データセンター

非常用発電機の拡販、冷却・電源システムのモジュール設計・販売等

製品や技術を組み合わせたユーティリティのワンストップソリューション提案



三菱重工

成長領域の事業化推進

エナジートランジション

「高砂水素パーク」で大型ガスタービンの水素混焼運転を継続

中小型ガスタービンの水素100%燃焼実証を開始

相模原工場で水素専焼エンジンを搭載した
発電セットの実証運転を開始

三菱重工

成長領域の事業化推進

エナジートランジション

CCS

**当社が技術供与したCO2回収プラントが
イタリアで稼働を開始**

国内でCO2回収技術の供与に関する協業契約を締結

CCS: Carbon Capture and Storage（二酸化炭素回収・貯留）

三菱重工

成長領域の事業化推進

エナジートランジション

CCS

7社共同で提案したCCS事業構想がJOGMEC公募事業に採択

液化CO_2船舶輸送及び受入貯蔵設備・貯留候補地
地場排出CO_2分離回収に関する検討・設計作業を担う

JOGMEC：独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構

「MISSION NET ZEROの推進」を継続

事業競争力の強化

自動化・省人化

物流分野

「自動ピッキング
ソリューション」が
実証を経て
稼働を開始

環境設備

ごみ焼却プラントの
統合運用システム
「MaiDAS®」による
O&Mの最適化

O&M：Operation & Maintenance（運転・保守）

三菱重工

事業競争力の強化

自動化・省人化

紙工機械

ARアプリを活用した
リモートサービス等により、
アフターサービス事業が伸長

AR: Augmented Reality（拡張現実）

三菱重工

事業競争力の強化

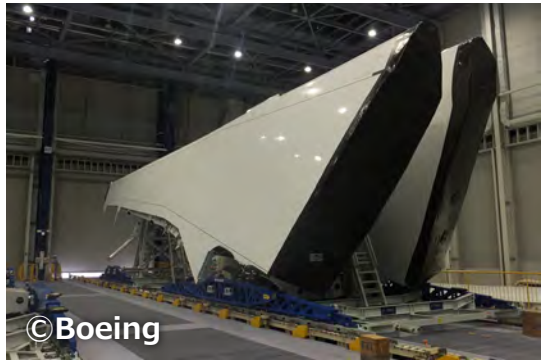
自動化・省人化

航空機用エンジン

自動化率の高い
工場を拡張

民間航空機

生産性向上への
取組み



三菱重工

事業競争力の強化

脱炭素化に向けた取組み

製鉄機械

直接還元鉄
製造プラントや
大型電気炉を受注

産業冷熱分野

コンパクトな
ヒートポンプを
開発中

連結計算書類

- 連結財政状態計算書
- 連結損益計算書
- 連結持分変動計算書
- 連結注記表

連結財政状態計算書

三菱重工

資産合計

6兆6,589億円

4,026億円 増加

負債合計

4兆1,891億円

2,934億円 増加

資本合計

2兆4,698億円

連結計算書類

- 連結財政状態計算書
- **連結損益計算書**
- 連結持分変動計算書
- 連結注記表

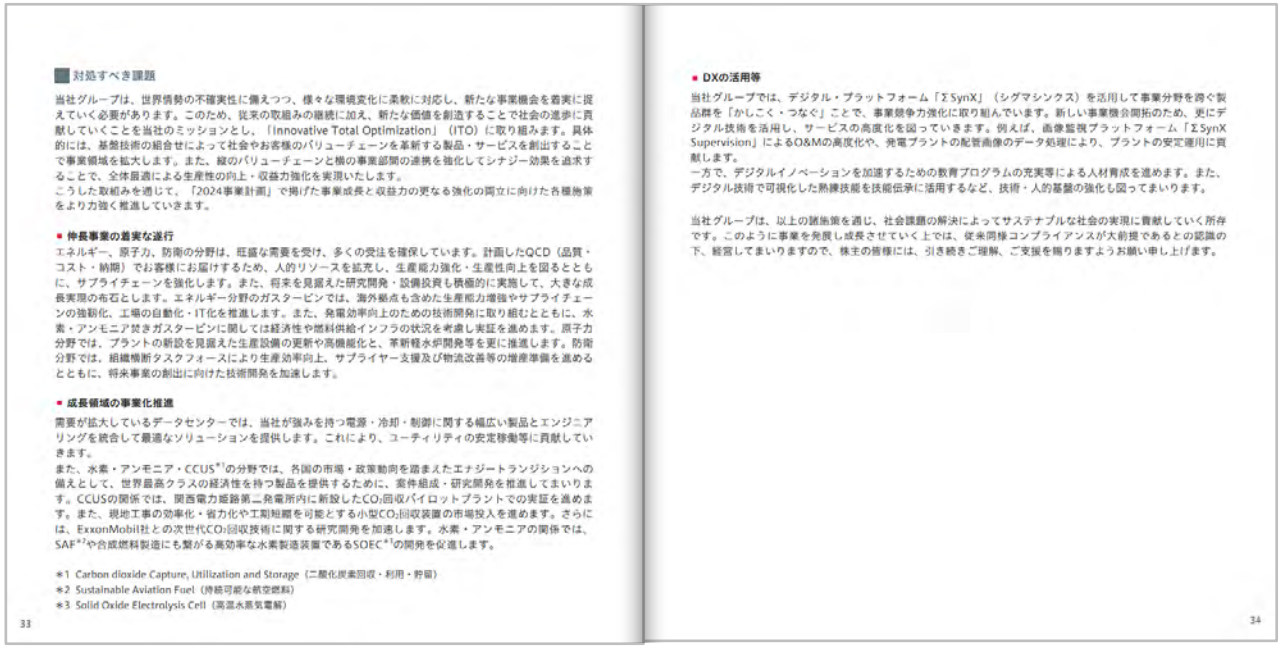
連結計算書類

- 連結財政状態計算書
- 連結損益計算書
- **連結持分変動計算書**
- **連結注記表**

計算書類

- 貸借対照表
- 損益計算書
- 株主資本等変動計算書
- 個別注記表

対処すべき課題



対処すべき課題

当社グループは、世界情勢の不確実性に備えつつ、様々な環境変化に柔軟に対応し、新たな事業機会を着実に捉えていく必要があります。このため、従来の取組みの継続に加え、新たな価値を創造することで社会の進歩に貢献していくことを当社のミッションとし、「Innovative Total Optimization」（ITO）に取り組みます。具体的には、基盤技術の組合せによって社会やお客様のバリューチェーンを革新する製品・サービスを創出することで事業領域を拡大します。また、縦のバリューチェーンと横の事業部間の連携を強化してシナジー効果を追求することで、全体最適による生産性の向上・収益力強化を実現いたします。
こうした取組みを通じて、「2024事業計画」で掲げた事業成長と収益力の更なる強化の両立に向けた各種施策をより力強く推進していきます。

■ 伸長事業の着実な遂行

エネルギー、原子力、防衛の分野は、旺盛な需要を受け、多くの受注を確保しています。計画したQCD（品質・コスト・納期）でお客様にお届けするため、人的リソースを拡充し、生産能力強化・生産性向上を図るとともに、サプライチェーンを強化します。また、将来を見据えた研究開発・設備投資も積極的に実施して、大きな成長実現の布石とします。エネルギー分野のガスタービンでは、海外拠点も含めた生産能力増強やサプライチェーンの強靭化、工場の自動化・IT化を推進します。また、発電効率向上のための技術開発に取り組むとともに、水素・アンモニア焚きガスタービンに関しては経済性や燃料供給インフラの状況を考慮し実証を進めます。原子力分野では、プラントの新設を見据えた生産設備の更新や高機能化と、革新軽水炉開発等を更に推進します。防衛分野では、組織横断タスクフォースにより生産効率向上、サプライヤー支援及び物流改善等の増産準備を進めるとともに、将来事業の創出に向けた技術開発を加速します。

■ 成長領域の事業化推進

需要が拡大しているデータセンターでは、当社が強みを持つ電源・冷却・制御に関する幅広い製品とエンジニアリングを統合して最適なソリューションを提供します。これにより、ユーティリティの安定稼働等に貢献していきます。
また、水素・アンモニア・CCUS*1の分野では、各国の市場・政策動向を踏まえたエナジートランジションへの備えとして、世界最高クラスの経済性を持つ製品を提供するために、案件組成・研究開発を推進してまいります。CCUSの関係では、関西電力姫路第二発電所内に新設したCO_2回収パイロットプラントでの実証を進めます。また、現地工事の効率化・省力化や工期短縮を可能とする小型CO_2回収装置の市場投入を進めます。さらには、ExxonMobil社との次世代CO_2回収技術に関する研究開発を加速します。水素・アンモニアの関係では、SAF*2や合成燃料製造にも繋がる高効率な水素製造装置であるSOEC*3の開発を促進します。

*1 Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage（二酸化炭素回収・利用・貯留）
*2 Sustainable Aviation Fuel（持続可能な航空燃料）
*3 Solid Oxide Electrolysis Cell（高温水蒸気電解）

33

■ DXの活用等

当社グループでは、デジタル・プラットフォーム「ΣSynX」（シグマシンクス）を活用して事業分野を跨ぐ製品群を「かしこく・つなぐ」ことで、事業競争力強化に取り組んでいます。新しい事業機会開拓のため、更にデジタル技術を活用し、サービスの高度化を図っていきます。例えば、画像監視プラットフォーム「ΣSynX Supervision」によるO&Mの高度化や、発電プラントの配管画像のデータ処理により、プラントの安定運用に貢献します。
一方で、デジタルイノベーションを加速するための教育プログラムの充実等による人材育成を進めます。また、デジタル技術で可視化した熟練技能を技能伝承に活用するなど、技術・人的基盤の強化も図ってまいります。

当社グループは、以上の諸施策を通じ、社会課題の解決によってサステナブルな社会の実現に貢献していく所存です。このように事業を発展し成長させていく上では、従来同様コンプライアンスが大前提であるとの認識の下、経営してまいりますので、株主の皆様には、引き続きご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

34

三菱重工

当社のミッション

新たな価値を創造することで社会の進歩に貢献

Innovative Total Optimization

全体最適

領域拡大

シナジー効果

対処すべき課題

三菱重工

「Innovative Total Optimization」（ITO）

事業領域の拡大

基盤技術の組合せによって
バリューチェーンを
革新する製品・サービスを創出

全体最適による
生産性の向上・収益力強化

縦のバリューチェーンと
横の事業部間の連携を強化

事業成長と収益力の更なる強化の両立

三菱重工

伸長事業の着実な遂行

エネルギー分野　**原子力分野**　**防衛分野**

人的リソースを拡充し、生産能力強化・生産性向上を
図るとともに、サプライチェーンを強化

将来を見据えた研究開発・設備投資も積極的に実施

三菱重工

伸長事業の着実な遂行

エネルギー分野／ガスタービン

生産能力増強やサプライチェーンの強靭化、
工場の自動化・IT化を推進

発電効率向上のための技術開発

水素・アンモニア焚きガスタービンの
経済性や燃料供給インフラの状況を考慮し実証

三菱重工

伸長事業の着実な遂行

原子力分野

プラントの新設を見据えた生産設備の更新や高機能化

革新軽水炉開発等を更に推進

三菱重工

伸長事業の着実な遂行

防衛分野

組織横断タスクフォースにより生産性向上、
サプライヤー支援及び物流改善等の増産準備を推進

将来事業の創出に向けた技術開発を加速

三菱重工

成長領域の事業化推進

データセンター

エンジニアリングにより、
当社が強みを持つ電源・冷却・制御に
関する幅広い製品を統合して
最適なソリューションを提供

三菱重工

成長領域の事業化推進

水素・アンモニア・CCUS

世界最高クラスの経済性を持つ製品を
提供するために、
案件組成・研究開発を推進

CCUS: Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage（二酸化炭素回収・利用・貯留）

三菱重工

成長領域の事業化推進

CCUS

関西電力姫路第二発電所内に新設した
CO_2回収パイロットプラントでの実証

現地工事の効率化・省力化や工期短縮を可能とする
小型CO_2回収装置の市場投入

ExxonMobil社との次世代CO_2回収技術に関する研究開発を加速

三菱重工

成長領域の事業化推進

水素・アンモニア

持続可能な航空燃料であるSAFや
合成燃料製造にも繋がる
高効率な水素製造装置であるSOECの
開発を促進

SAF: Sustainable Aviation Fuel
SOEC: Solid Oxide Electrolysis Cell

三菱重工

DXの活用等

事業競争力強化

ΣSynXにより事業分野を跨ぐ製品群を
「かしこく・つなぐ」

新しい事業機会開拓のため、
更にデジタル技術を活用し、サービスの高度化

三菱重工

DXの活用等

DI人材の育成

デジタルイノベーションを
加速するための
教育プログラムの充実等

技能伝承

デジタル技術で可視化した
熟練技能を技能伝承に活用

対処すべき課題

三菱重工

事業成長と収益力の更なる強化の両立

重点領域

- 伸長事業の着実な遂行
- 成長領域の事業化推進
- 事業競争力の強化

社会課題の解決によるサステナブルな社会の実現

安全とコンプライアンス

決議事項

第１号議案
剰余金の処分の件

第１号議案　剰余金の処分の件

三菱重工

株主還元の基本方針	DOE（株主資本配当率）　４％以上
2024年度 期末配当金	1株につき　12円 年間配当金　23円 （前年度比３円増配）

株主資本配当率：支払配当÷株主資本（除く OCI）
OCI：その他の資本の構成要素（為替換算調整勘定、その他評価差額金、ほか）

第２号議案
監査等委員でない取締役７名選任の件

第２号議案　監査等委員でない取締役７名選任の件

三菱重工

候 補 者

いずみさわ　せいじ
泉澤　清次

いとう　えいさく
伊藤　栄作
新任

すえまつ　まさゆき
末松　正之
新任

にしお　ひろし
西尾　浩
新任

こばやし　けん
小林　健
社外　独立

ひらの　のぶゆき
平野　信行
社外　独立

ふるさわ　みつひろ
古澤　満宏
社外　独立

第３号議案
監査等委員である取締役４名選任の件

第３号議案　監査等委員である取締役４名選任の件

三菱重工

候 補 者

こざわ　ひさと
小澤　壽人　新任

うのうら　ひろお
鵜浦　博夫　社外　独立

もりかわ　のりこ
森川　典子　社外　独立

いい　まさこ
井伊　雅子　社外　独立

第４号議案
補欠の監査等委員である取締役１名選任の件

第４号議案　補欠の監査等委員である取締役１名選任の件

三菱重工

候 補 者

おか　　のぶひろ

岡　　伸浩

社外　独立

「事前コメント」のご紹介と回答

- 取締役会の構成と女性活躍について
- 当社におけるAIの活用について
- 情報セキュリティについて
- 配当政策・株主還元方針について

- **取締役会の構成と女性活躍について**
- 当社におけるAIの活用について
- 情報セキュリティについて
- 配当政策・株主還元方針について

- 取締役会の構成と女性活躍について
- **当社におけるAIの活用について**
- 情報セキュリティについて
- 配当政策・株主還元方針について

- 取締役会の構成と女性活躍について
- 当社におけるAIの活用について
- **情報セキュリティについて**
- 配当政策・株主還元方針について

- 取締役会の構成と女性活躍について
- 当社におけるAIの活用について
- 情報セキュリティについて
- **配当政策・株主還元方針について**

MOVE THE WORLD FORWARD MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP

三菱重工